

経営計画の概要		【令和元年度実績値の（）書きは、平成30年度からの増減数】					計画達成に向けた取組の概要	自己評価
(4)	スペシャリストの養成						・医師を国際学会等に派遣し、特に高度な専門的知識や技能を修得させた。(R元年度:海外2名) ・専門看護師育成(令和2年5月時点の資格取得者数:3名) ・認定看護師育成(令和2年5月時点の資格取得者数:34名、5名認定審査受検予定) ・学会、研修会に参加した医療職員や認定看護師等による院内報告会・研修会を通じて、知識・技術の共有を図り、医療現場の質の向上に努めた。	○ 順調
	主要指標	計画策定時 (H26年度)	H30年度 実績値	R元年度 実績値	R2年度 目標値			
	○高度医療研修医師派遣者数 【県立3病院全体】	4名	20名	24名 (4名)	14名			
	○専門・認定看護師数 【県立3病院全体】	17名	29名	37名 (8名)	35名			
	○看護学生実習指導者数 (看護協会実習指導者講習会 修了者数)【中央病院】	24名	26名	27名 (1名)	34名			
(5)	医師、看護師等の勤務環境の改善・充実						・県民への医療サービスの向上につながる医師等の業務の負担軽減を図るため、事務補助者(医師事務作業補助者等)52名について、効果的な配置を行った。 (中央病院33名、三好病院14名、海部病院5名) ・中央病院の院内保育所(定員80名(内徳大10名))は、原則年中無休で運営しており、病児保育への対応や夜間保育、半日保育、臨時保育も実施している。	◎ 達成
	主要指標	計画策定時 (H26年度)	H30年度 実績値	R元年度 実績値	R2年度 目標値			
	○医師事務作業補助者数 【県立3病院全体】	40名	51名	52名 (1名)	50名			
(6)	危機管理への対応力の強化						・各病院において、南海トラフ巨大地震を想定した多数傷病者受入訓練や衛星電話等による情報伝達訓練を実施し、災害時に備えた救急救護体制の強化を図った。更に、広域災害にも対応できるよう、総合メディカルゾーン基本構想に基づく徳島大学病院と初となる合同実働訓練や市町村、自衛隊等関係機関との連携訓練を実施し、災害医療体制における連携強化を図った。 ・DMATとして必要な知識を有する専門職員を養成し、災害拠点病院として、発災直後の災害急性期における医療活動を担えるよう、専門職員の養成に努めた。 (中央病院4チーム、三好病院3チーム、海部病院2チーム) ・災害用備蓄食料については、県立3病院による共同購入を実施し、計画的な整備に努めた。	○ 順調
	主要指標	計画策定時 (H26年度)	H30年度 実績値	R元年度 実績値	R2年度 目標値			
	○DMAT(災害派遣医療チーム)数 【県立3病院全体】	7チーム	8チーム	9チーム (1チーム)	10チーム			

経営計画の概要【令和元年度実績値の（）書きは、平成30年度からの増減数】					計画達成に向けた取組の概要		自己評価
ICT（情報通信技術）の活用					◎ 達成		
・3病院での電子カルテシステムの統一による診療連携							
・地域医療ネットワークの充実							
・ICT技術を活用した新たな取り組みの展開					◎		
主要指標	計画策定時 (H26年度)	H30年度 実績値	R元年度 実績値	R2年度 目標値			
○県立3病院の医療情報システムの統一	—	—	—	※平成30年度			
医療器械等の共同購入の推進					△ 努力		
・医薬品、医療材料等の共同購入、連携による購入費用の低減							
主要指標	計画策定時 (H26年度)	H30年度 実績値	R元年度 実績値	R2年度 目標値			
○医薬品の採用品目数【県立3病院全体】	1,869品目	1,694品目	1,740品目 (46品目)	1,000品目以下 ※H30年度	△ 努力		
○医療材料の共同購入品目数【県立3病院全体】	168品目	197品目	227品目 (30品目)	250品目			

2 「医療機能の分化と連携の実現」に向けた取組

経営計画の概要 【令和元年度実績値の（）書きは、平成30年度からの増減数】	計画達成に向けた取組の概要	自己評価
(1) 高度先進医療・臨床研究の充実 ・高度医療機器の整備による先進医療の提供	・中央病院においては、リニアックやPET-CT等による高精度な治療や検査の推進に取り組んだ。 【内視鏡下手術支援ロボット：141件、MRI（単純MR：4,837件、造影MR：1,233件）、PET-CT：1,270件、256列CT・単純CT：19,291件、造影CT：5,453件、冠状動脈造影CT：319件、リニアック（放射線治療装置）：2台4,340件（うち高精度放射線治療990件）】 ・三好病院においては、手術支援ロボットを用いて人工関節置換術や脊椎内視鏡手術機器を用いた脊椎手術といった最先進の手術を実施する「高度先進関節脊椎センター」を令和2年4月1日に開設するとともに、がん治療：手術・化学療法・放射線治療による質の高い治療の推進に努めた。 【MRI（単純MR：2,925件、造影MR：201件）、単純CT：8,871件、造影CT：1,126件、リニアック：1,065件】 ・海部病院においては、H29.5.8新病院開院からマルチスライスCT導入。 【単純CT：3,942件、造影CT：308件、MRI（単純MR：1,992件、造影MR：109件）、脳神経外科・整形外科を中心に活用】	○ 順調

経営計画の概要【令和元年度実績値の（）書きは、平成30年度からの増減数】		計画達成に向けた取組の概要		自己評価			
地域医療連携の充実		・連携医として、中央病院518名、三好病院57名、海部病院19名を登録し、地域医療連携を進めた。 ・中央病院の患者支援センターでは、院内外の多職種（医師・ケアマネ・看護師・MSW・薬剤師・栄養士等）と連携し、入院前から退院まで一貫した患者支援を行っている。 （紹介患者件数：20,259件） ・三好病院では、地域中核病院機能の取組として、つるぎ町立半田病院・三好市立三野病院と3病院間で医師の派遣等の協力体制を実施し、地域医療支援病院として、地域の医療機関等の連携に努めた。 （紹介患者件数：3,711件） ・海部病院では、利用者のニーズ把握と地域の医療機関、施設等との連携強化を図るとともに、紹介患者や退院患者への「訪問診療」（280件）や「訪問看護」（655件）などの在宅支援を行なうとともに、在院日数の短縮に繋げてきた。また、「海部・那賀モデル」を核とした地域の医療従事者向けの研修会を開催した。 （紹介患者件数：1,914件）		○			
・地域医療機関との役割分担、連携の推進							
・三好病院、海部病院における訪問診療、訪問看護等、在宅医療の推進							
主要指標	計画策定時 （H26年度）			H30年度 実績値	R元年度 実績値	R2年度 目標値	
○紹介率	【中央病院】			79.8%	85.7%	95.6% (9.9%)	90%
				40.4%	49.0%	49.9% (0.0%)	60%
				28.8%	16.7%	18.7% (2.0%)	40%
○逆紹介率	【中央病院】			138.8%	191.6%	203.2% (11.6%)	180%
				96.6%	86.0%	83.2% (△2.8%)	120%
		33.1%	32.3%	39.1% (6.8%)	40%		

経営計画の概要【令和元年度実績値の（）書きは、平成30年度からの増減数】	計画達成に向けた取組の概要	自己評価
(3) ホスピタルカーの運行 ・ホスピタルカーの配置、運用	・中央病院において、ホスピタルカーを、平成29年7月より運行開始し、救命率の向上を図った。（R元年度：79件）	◎ 達成
(4) 地域に不足する機能への取組の検討 ・地域医療構想の実現に向けた取り組み	・三好病院は、高度急性期及び急性期病床を維持するとともに、地域医療構想調整会議における議論を踏まえ、西部圏域で不足している回復期病床への一部病床の転換について検討している。 ・海部病院は、医療圏内に「療養系の病床」がないことから、平成21年度より「訪問介護」を、平成22年度より「訪問診療」をそれぞれ開始し、平成23年度には在宅看取りを開始し、令和元年7月から「地域包括ケア病棟」の運用を開始し、地域の医療機関、介護施設等と連携を強化していくことで、地域住民が住み慣れた地域で、長く過ごしていただけたための取組を進めている。	○ 順調
(5) 地域医療機関・介護施設等に対する支援の充実 ・地域医療機関への情報発信、支援	・県立3病院とともに、県から「へき地医療拠点病院」として指定を受け、へき地診療所や医師の確保が困難な医療機関に対し、医師派遣による診療支援を行った。 (R元年度派遣実績、中央病院421回、三好病院150回、海部病院161回、3病院合計732回) ・感染症対策については、ICD・ICNといった感染対策の専門スタッフにより構成される感染制御チームが中心となり、地域医療機関と合同で、院内感染対策にかかるカンファレンスを実施している。また、医療機関の間で相互に訪問を行い、院内感染対策に関する評価を行っている。地域全体での感染対策のボトムアップを図った。	○ 順調

経営計画の概要	計画達成に向けた取組の概要	自己評価
【令和元年度実績値の（）書きは、平成30年度からの増減数】 精神科医療ニーズの高まりに対する対応 ・せん妄や抑うつ、認知症患者等、精神科医療への対応	・中央病院では、平成30年度から多職種（精神科医・精神科認定看護師・臨床心理士・精神保健福祉士）により編成した精神科リエゾンチームが、定期的なカンファレンスや病棟ラウンドを実施し、身体疾患に伴う精神症状の悪化や心理的問題、認知症ケア、せん妄等の患者に介入することにより、よりよい医療の提供とケアの充実に努めた。 ・三好病院では、高齢化に伴う認知症対策として、認知症対策チーム（オレンジチーム）による院内デイケアや院内ラウンド等を行い、高齢者や認知症患者に対し適切な医療や看護が提供できるよう取り組みを行った。 ・平成29年度からは、認知症オレンジカフェを、みよし地域包括支援センターと共同で行い、認知症の方や家族が経験者の話を聞いたり、悩みを打ち明けたりとできる機会を設けた。（R元年度実績 7回開催） ・海部病院では、毎週月曜日と金曜日の午後、完全予約制で認知症外来を実施した。	○ 順調
住民に開かれた病院運営 ・地域住民の病院経営への参加機会の設置 ・住民への公開講座、ボランティア参加の推進	・中央病院では、徳島がん対策センター公開講座「あなたのかたがたの家にいよう」、糖尿病とがんに関する県民公開講座を開催した。オープンホスピタルを開催し、県内高校生が参加した。 ・病院ボランティアによる外来患者に対するホールでの案内や車椅子利用者の介助、生花の飾り付けや植木の手入れ、病院図書室における図書の貸出等を行った。（ボランティア登録者数14名） ・三好病院では、地域住民の代表である「三好病院を応援する会」との意見交換会を開催し、関係者と意見交換を行い、病院運営の参考にした。市民公開講座を開催するとともに、地域の住民を対象とした三好病院出前講座「生き生き講座」を行い、地域に開かれた病院づくりに努めた。 ・病院ボランティアによる屋上庭園の手入れや季節の飾り等を通して、患者が少しでも不安を解消し、安心して治療を受けられる環境を地域住民とともに醸成していくよう努めた。（ボランティア登録：個人16名、団体7団体） ・海部病院では、海部病院経営戦略会議に、地域住民によって設立された団体の代表者等の参加を継続して実施した。 ・糖尿病講座、糖尿病教室を開催した。また、子どもを対象とした活動体験に参加し、看護体験を実施した。 ・病院敷地内の草抜や剪定など病院ボランティアを受け入れた。（ボランティア登録者数25名）	○ 順調

3 「医療の質の向上」に向けた取組

経営計画の概要			【令和元年度実績値の（）書きは、平成30年度からの増減数】			計画達成に向けた取組の概要		自己評価	
(1)	チーム医療の推進						・医師をリーダーとして多職種で構成される診療チームとして、NST（栄養サポートチーム）、褥瘡対策チーム、ICCT（院内感染制御チーム）、緩和ケアチーム、糖尿病チーム、呼吸ケアサポートチーム、口腔ケアチーム、精神科リエゾンチーム、フライトチーム、ICLSチーム、DMAT、DPATなど多数のチームが活動しており、良質で安全な医療の提供に取り組んだ。 ・各種チームは、病棟ラウンド・チームカンファレンスのほか、院内・院外に向けた研修会を行うなど、積極的に活動している。 ・チーム活動の一環として、糖尿病教室やがん患者教室、アルコールミーティングなどの患者教室を定期的に開催し、地域に貢献している。	○ 順調	
	主要指標			計画策定時 H26年度	H30年度 実績値	R元年度 実績値			R2年度 目標値
	○薬剤管理 指導件数			11,961件	14,448件	16,633件 (2,185件)			16,000件
	【中央病院】			3,841件	2,727件	2,644件 (△83件)			4,000件
【海部病院】			1,905件	2,395件	1,045件 (△1,350件)	1,900件			
(2)	病院機能評価の継続受審			病院機能評価の受審により、課題の把握と改善への取り組みを推進				○ 順調	
(3)	医療安全対策の推進			医療安全対策の推進 ・ヒヤリハットの事例収集、分析により、医療安全対策の推進 ・医療安全研修の実施				○ 順調	
(4)	院内感染対策の推進			院内感染対策チームを中心として研修会や院内ラウンドの実施 ・院内感染対策チームを中心として研修会や院内ラウンドの実施 ・地域の医療機関や行政機関との連携				○ 順調	

経営計画の概要【令和元年度実績値の（）書きは、平成30年度からの増減数】	計画達成に向けた取組の概要	自己評価
(5) 患者・職員の満足度の向上 ・総合相談の窓口における患者サポートの充実 ・患者満足度調査の現状分析・検証・改善の実施による、患者満足度の向上 ・働きやすい職場環境の整備	・病院局職員を含む県職員が対象となる「徳島県特定事業主行動計画」を見直し、平成27～令和元年度までの新たな計画を策定している。引き続き、子育てと仕事の両立を支援し、働きやすい職場環境づくりに努めていく。 ・相談窓口は、患者さんからの病気、受診等に関する相談や質問、専門部署への案内などを行い、患者さんの満足度の向上に努めている。 ・毎年、患者満足度調査を実施し、調査結果については、全職員で情報共有するとともに、職員を対象に接遇研修を実施し、接遇能力の向上を図った。	○ 順調
(6) 患者さんの信頼を得る医療の推進 ・インフォームドコンセントの取り組みを推進 ・セカンドオピニオン相談の周知 ・臨床指標の公表	・患者の治療に関わる情報を確実に説明し、同意を得る「インフォームドコンセント」について、誠意を持って説明に取り組んでいる。 ・「セカンドオピニオン外来」を開設して、がん又はその疑いのある患者さんやご家族からの相談を受けている。 ・「臨床指標の公表」については、入院・外来患者数等の病院の基礎的情報や退院患者の集計を基にした統計データをホームページに掲載することにより、県民や患者さんに病院機能、医療情報の可視化を行い、医療の質の向上に繋がるよう努めている。	○ 順調
(7) 広報活動の充実 ・病院ホームページの充実 ・地域医療機関への情報発信、広報活動の推進	・病院局、各県立病院のホームページにおいて、診療案内、各種指標等の積極的な情報提供を行い、患者サービスの向上に努めるとともに、イベント等の新着情報についても掲載し、患者や医療関係者に情報発信を行った。 ・広報誌、各種パンフレットを発行し、関係機関や来院者に配布し、情報提供を積極的に行った。	○ 順調

経営計画の概要	計画達成に向けた取組の概要	自己評価
【令和元年度実績値の（）書きは、平成30年度からの増減数】 (8) 快適な病院利用環境の整備 ・メディカルストリートの整備 ・海部病院の移転改築に伴う患者利用環境の改善	・メディカルゾーン構想外構工事について、平成31年2月2日に中央病院と徳島大学病院をつなぐメディカルストリートが開通し、記念式典を行った。 ・中央病院の駐車場について、徳島大学病院との共同利用、料金の統一化を図るとともに、病院敷地内への路線バスの乗り入れが開始された。 ・三好病院の低層棟において、外壁改修工事や屋上防水工事を行い、施設の長寿命化を図り、快適な病院利用環境の整備に努めた。 ・海部病院は、平成29年5月8日に、高台に移転し開院した。開院に併せて路線バス(上下16便)が構内乗り入れを開始。また、立体駐車場を整備し合計183台分の駐車スペースを確保した。	○ 順調

4 「経営の効率化」に向けた取組

経営計画の概要【令和元年度実績値の（）書きは、平成30年度からの増減数】					計画達成に向けた取組の概要		自己評価
急性期医療の重点化					・中央病院は、高度急性期病院・3次救急病院として、高度な医療機械を導入し、重篤な患者を積極的に受け入れている。平成29年4月より外傷センターを設け、より専門性の高いプロフェッショナルによる救命増進に努めた。 外来機能の役割分担について、地域医療機関との連携を推進し、新規患者の確保に努めるとともに、入院期間1+IIの割合が80%以上という目標に対し、平均在院日数の適正な管理に努めた結果、目標を達成することができた。 ・三好病院は、急性期型病院としての機能の重点化を図るため、平成28年3月から7：1入院基本料の施設基準を取得し、平均在院日数の適正管理に努めた。また、地域の医療機関との連携を推進し、新規入院患者の受け入れを図った。 今後、四国中央部の拠点として、急性期病院としての地域での役割を明確化し、救急入院及び紹介入院による新規入院患者数の受け入れに取り組み、収益の増加を図っていく。		○ 順調
○平均在院日数							
【中央病院】							
【三好病院】							
○1日平均新規入院患者数							
【中央病院】							
【三好病院】							
DPC分析による経営戦略の策定					・DPC対象病院として、診療情報管理、コーディング委員会を開催し、厚労省に提出しているDPCデータを用い、適宜分析を行うほか、DPC精度向上に取り組んでいる。 ・平均在院日数や地域でのシェア等を分析し、DPCデータを用いた経営分析、適切なコーディングに関する精度向上に努め、入院診療実績の向上を図った。		○ 順調
DPCデータを基にした経営分析、他病院のデータとの比較分析							
外部コンサルタントの活用							

経営計画の概要	【令和元年度実績値の（）書きは、平成30年度からの増減数】	計画達成に向けた取組の概要	自己評価
(3)	診療報酬制度への戦略的な取組 ・診療報酬制度改定への迅速・的確な対応 ・診療報酬査定内容の分析、請求漏れの防止	・診療報酬検討会を開催し、査定結果等を医療スタッフにフィードバックするとともに、請求漏れ、誤りの防止、査定減対策等、請求精度の向上に努めた。 ・令和2年4月の診療報酬改定に対応するため、情報収集を行い、新たな施設基準の取得などに取り組んでいる。	○ 順調
(4)	未収金の発生防止と回収促進 ・医療費に関する支払相談の充実 ・未収金回収への積極的な取り組み	令和元年度の医療未収金（患者負担分）は、3病院の合計で2億6,479万1,440円あり、平成30年末未収金の2億7,119万5,154円より640万3,714円減少しているが、令和元年度決算において、包括外部監査の指摘を踏まえ、確定してない収益を概算で計上したことに伴い、実質的な未収金のみを集計する方法に変更したため減額となっている。 ・医事受託業者等との連携による未収金発生の抑制及び回収の促進、電話や戸別訪問による督促を実施した。 ・一定の要件を満たす場合の法的措置（支払い督促）実施した。 ・回収が困難となっているものについては、弁護士法人に回収を委託する。 ・個別債権の検討ワーキンググループを立ち上げ回収に向けた方策を調査検討した。	○ 順調
(5)	医師の確保と育成（再掲）	—	—

経営計画の概要【令和元年度実績値の（）書きは、平成30年度からの増減数】					計画達成に向けた取組の概要		自己評価
後発医薬品の採用							
・後発医薬品の採用拡大による患者負担の軽減、費用の削減							
(1)	主要指標	計画策定時 (H26年度)	H30年度 実績値	R元年度 実績値	R2年度 目標値	◎ 達成	
	○後発医薬品割合 【中央病院】 【三好病院】 【海部病院】	68.4%	87.8%	88.7% (0.9%)	70% (H28年度)	・患者負担の軽減とともに費用の削減に繋がる後発医薬品の採用について、DPC分析の検証に基づき、計画的な拡大に取り組んだ。 ・後発医薬品数量割合は、令和元年度末において、すべての病院で「80%」を超えており計画目標を達成しているが、引き続き各病院の薬事審議会を通じて採用医薬品について随時、後発医薬品への切り替えを進めていく。	
		63.9%	87.2%	89.7% (2.5%)	80% (H30年度)		
		82.2%	92.6%	93.9% (1.3%)			
(2)	医療器械等の共同購入の推進（再掲）				—		—
(3)	効率的な委託業務の推進				・物品管理・洗浄滅菌業務については、スケールメリットを活かし、病院局において、3病院を一括した契約を締結した。		○ 順調
	・長期継続契約、一括契約による経費削減				・警備、清掃業務で一般競争入札を実施し、長期継続契約を締結した。また、検査・給食・医事などの各委託業務内容の見直しについて検討し、効率化及び経費の節減に努めた。		
(4)	医療情報システムの統一化及び総務事務のICT化				・県立3病院で医療情報を共有し、システムの相互利用を可能とするとともに、総合メディカルゾーン本部の徳島大学病院や鳴門病院をはじめとする各圏域の地域医療機関との連携強化を更に進めるため、「病院総合情報システム」の導入を進め、平成30年10月28日から新システムが本格稼働した。		○ 順調
・電子カルテシステムの統一化による費用の低減、 ・総務事務に係る電子決裁化による事務処理の省略化				・総務事務システムの導入に向けて、各病院の現場職員を含むワーキンググループを設置し、課題意見の集約及び検討を重ね、現場運用に即した仕様書を作成するとともに、発注手続きを進め、導入業務に係る契約を締結した。また、令和2年度中の本稼働を行うため、スケジュール調整や導入協議など、システムの構築作業を進めた。			

経営計画の概要	【令和元年度実績値の（）書きは、平成30年度からの増減数】	自己評価
(5) 事務部門のスリム化と強化 ・病院組織の業務、体制の検討 ・専門性の高い職員の採用、育成	計画達成に向けた取組の概要 ・各病院において、課を廃止し、担当制とし、各担当にリーダーを配置することで、効率的な業務の遂行を行うとともに、医療情報職を平成29年4月から採用した。	○ 順調
(6) 病院資産の有効活用 ・医師公舎等の病院資産の有効活用	計画達成に向けた取組の概要 ・平成29年2月に解体した中央病院の医師公舎跡地に、不足する駐車場スペースを新たに整備し、有効活用によるサービスの向上を図った。	○ 順調

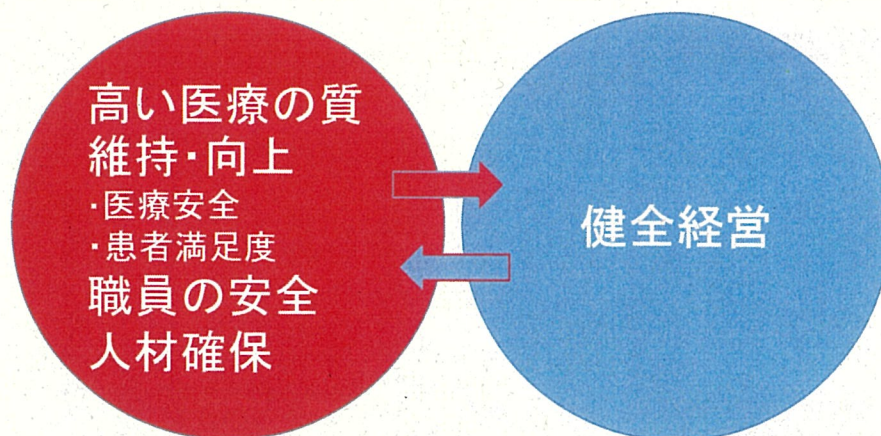
各県立病院の取組状況について

- 1 中央病院 . . . p . 1 ~ p . 9
- 2 三好病院 . . . p . 10 ~ p . 17
- 3 海部病院 . . . p . 18 ~ p . 24

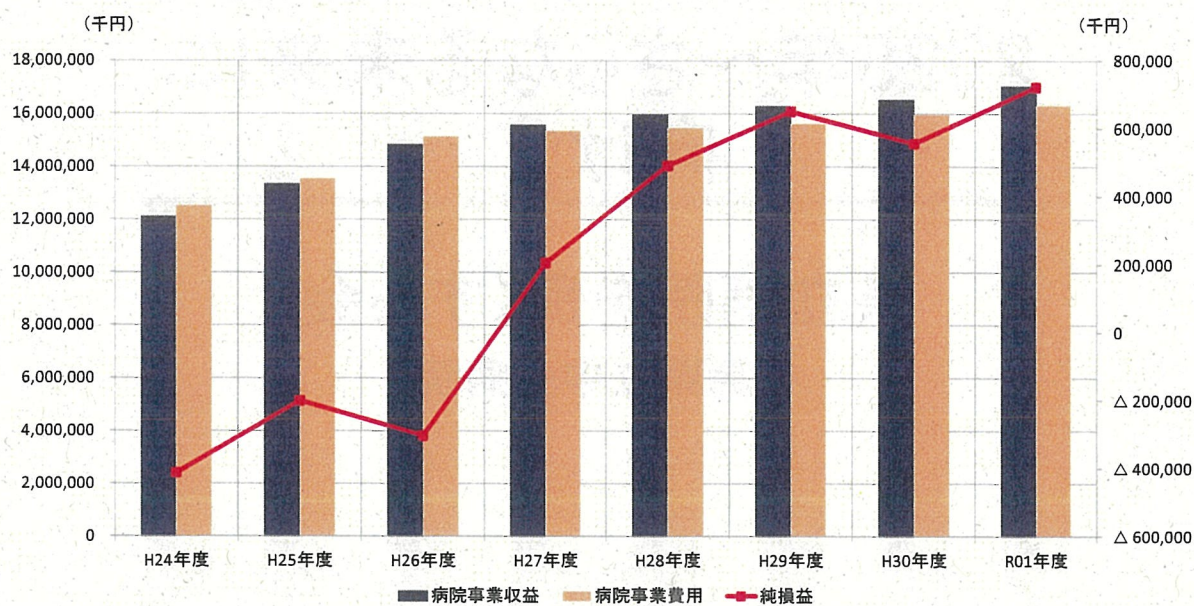
2025年～さらなる未来に 向けて

県立病院を良くする会
徳島県立中央病院

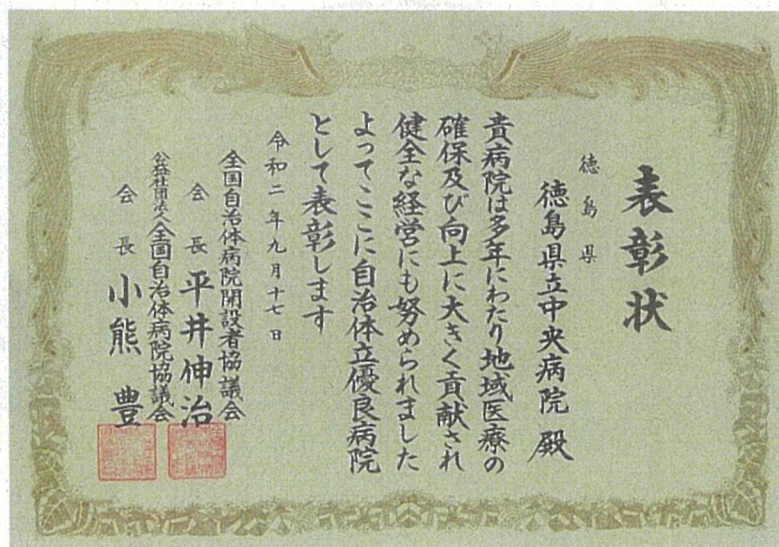
徳島県立中央病院が目指す方向



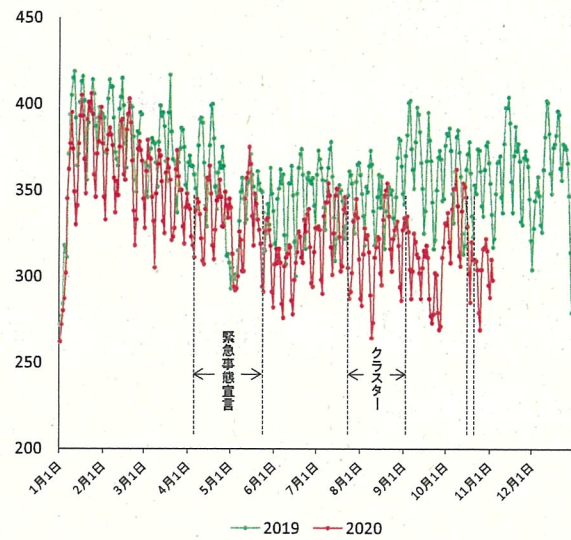
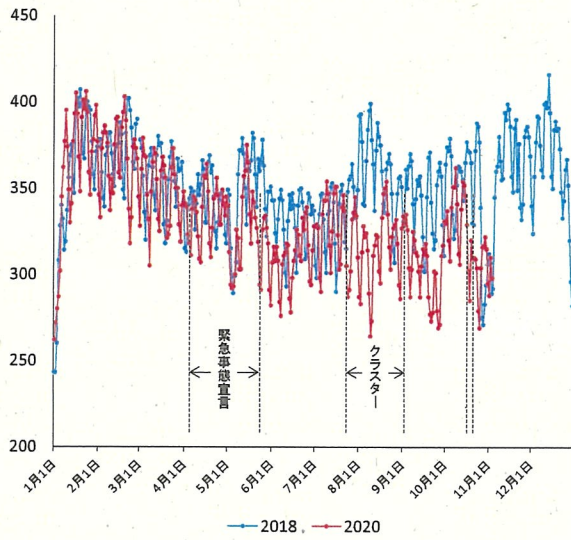
病院事業収支の推移



自治体立優良病院表彰

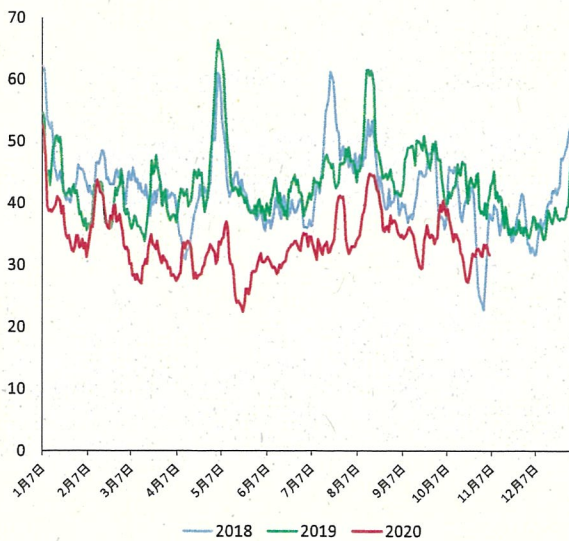


入院患者数の比較

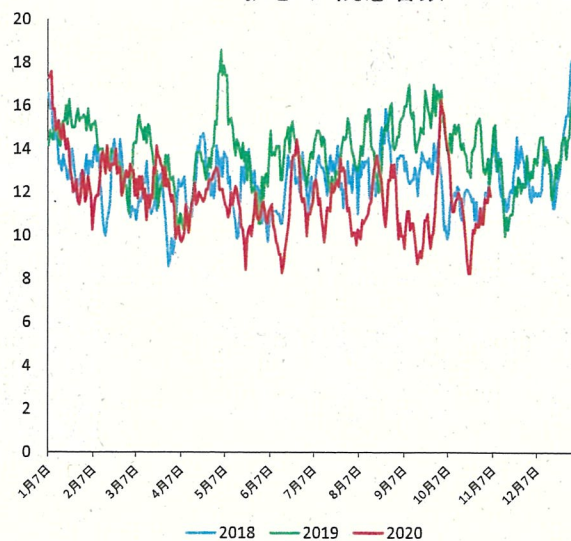


救急患者数比較

救急患者数



救急:入院患者数



高度急性期病院として政策医療に特化

- 救急医療
- 小児救急・新生児集中治療
- 精神(合併症、救急、認知症)
- 癌
- 生活習慣(糖尿病・心血管・脳卒中)
- 災害医療

ドクターカーの運用開始

- 11月2日より
- 重症外傷
- 医師が同乗
- 各消防と
実地シミュレーション
- 今後活動範囲を
広げていきたい



医療安全

❗ 医療事故発生

STOP 新たな医療事故発生を予防

🏥 医療安全講習受講

🏥 Team STEPPS研修: ノンテクニカルスキルの向上

🏥 内服薬確認作業見直し

🏥 RRSの充実

🏥 セイフティマネージャー育成

🏥 口頭指示マニュアル遵守

新たな課題

• 救急医療

• 小児救急・新生児集中治療

• 精神(合併症、救急、認知症)

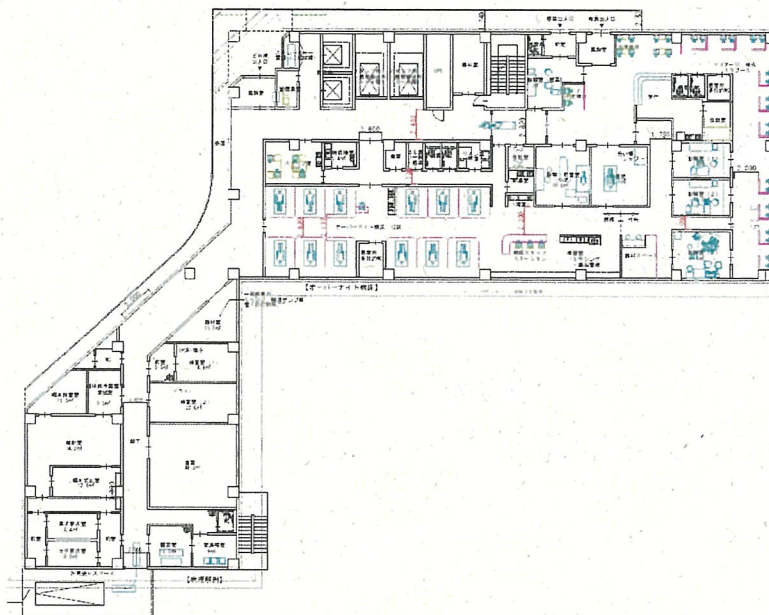
• 癌

• 生活習慣(糖尿病・心血管・脳卒中)

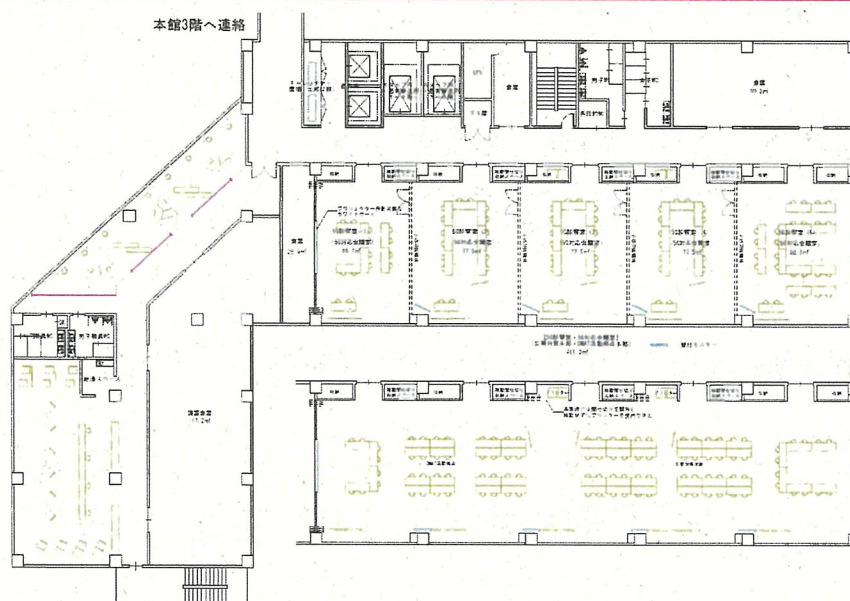
• 災害医療

• 緊急事態に対応できる医療体制: 職員の安全確保

新ER棟：感染症流行に対応できる施設



新ER棟：災害に対応できる施設



自治医大出身医師との交流：昨年

- 日野谷診療所
 - 三橋乃梨子先生
 - 廣島裕也先生
- 上那賀病院
 - 加納将嗣先生
 - 林宏樹先生
- 木頭診療所
 - 近藤健介先生
- 出羽島診療所



自治医大出身医師との面談

- | | |
|-----------|-----------|
| • 日野谷診療所 | • 木頭診療所 |
| • 三橋乃梨子先生 | • 花田健太先生 |
| • 上那賀病院 | • 国立循環器病C |
| • 加納将嗣先生 | • 横山靖浩先生 |
| • 平田圭市郎先生 | |
| • 廣島裕也先生 | |



県立中央病院の果たすべき役割

- ・ 救急・災害医療の充実
- ・ 教育
 - ・ 卒前教育
 - ・ 初期臨床研修
 - ・ 専門医研修
- ・ 医師の確保
 - ・ 地域枠医師
 - ・ 自治医大出身医師

徳島県立三好病院・地域医療構想 6年間の取り組み



徳島県立三好病院
院長
住友 正幸

晩秋
寒露
蟋蟀在戸

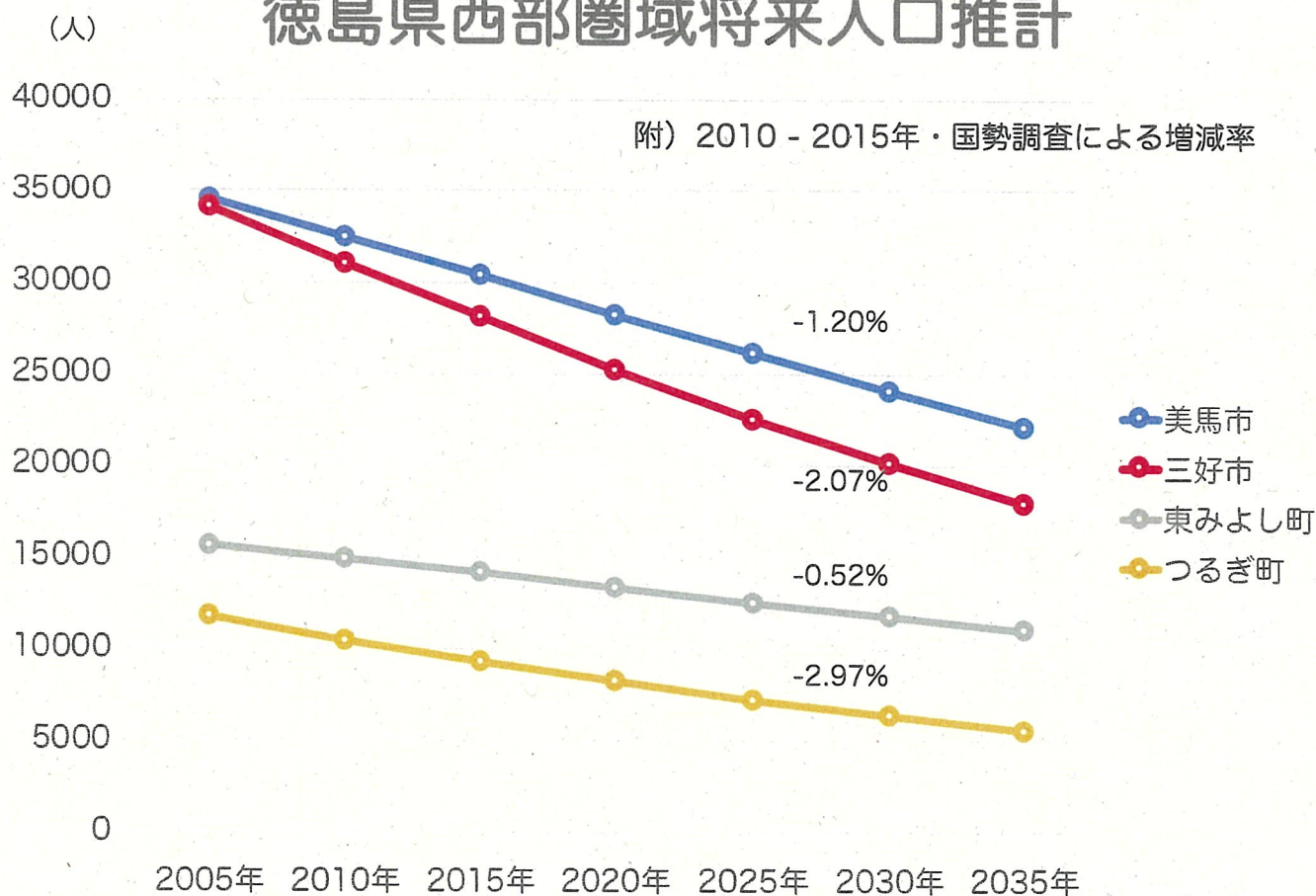


(データ作成：横佐古 亜弓、井内 英二)

2020年11月9日「県立病院を良くする会」 於徳島県庁

徳島県西部圏域将来人口推計

附) 2010 - 2015年・国勢調査による増減率



国立社会保障人口問題研究所データより作成 (住友)

徳島県病院事業経営計画

～安心医療・とくしまを支える新県立病院プラン～

3病院54頁

平成28年6月

徳島県病院局

3/16

Tokushima Prefectural Miyoshi Hospital

15頁

入院患者数(1日当たり)

(単位:人)

年度	H22	H23	H24	H25	H26
中央病院	383.8	371.1	339.0	366.9	361.7
三好病院	165.7	178.3	183.3	174.2	137.3
海部病院	61.7	60.7	62.3	59.4	63.1
計	611.1	610.2	584.6	600.5	562.1

外来患者数(1日当たり)

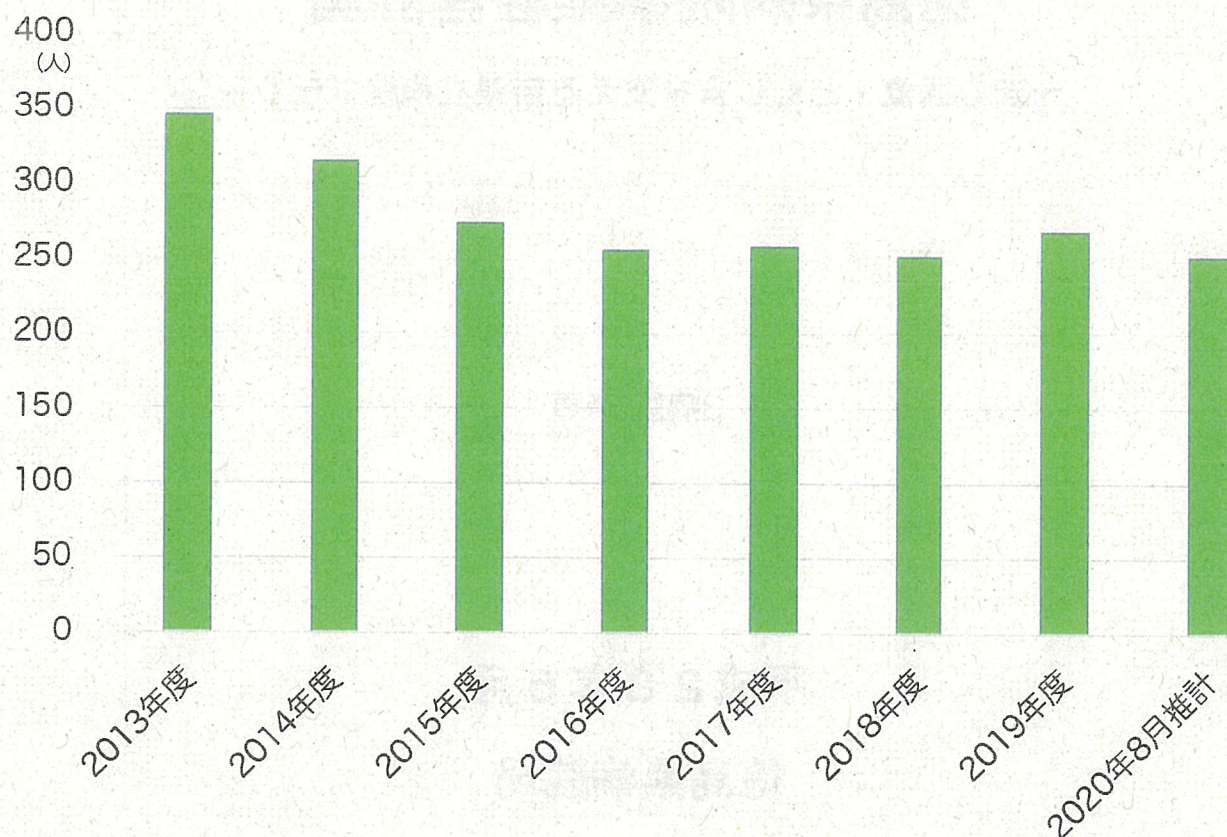
(単位:人)

年度	H22	H23	H24	H25	H26
中央病院	665.3	631.7	608.2	625.4	609.6
三好病院	354.2	353.6	340.9	346.4	314.4
海部病院	189.2	204.8	206.2	202.9	200.1
計	1,208.8	1,190.1	1,155.2	1,174.7	1,124.1

4/16

Tokushima Prefectural Miyoshi Hospital

一日平均外来患者数



5/16

Tokushima Prefectural Miyoshi Hospital

【補足資料】

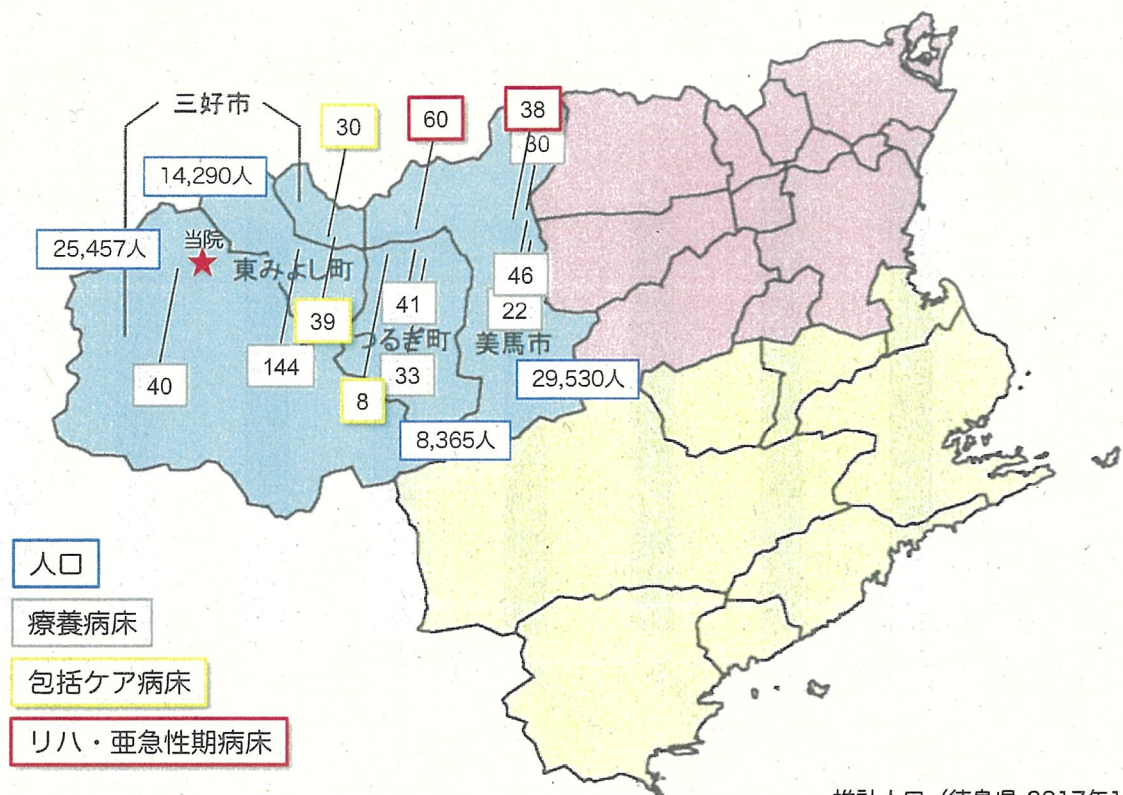
徳島県西部地域医療構想調整会議

	医療機能	2025 必要病床数 (床) (A)	2014 病床機能報告での 病床数(床) (B)	(A) - (B)	左の 増減率 (%)
西部	高度急性期	47	10	37	370.0
	急性期	274	451	▲ 177	▲ 39.2
	回復期	310	184	126	68.5
	慢性期	377	684	▲ 307	▲ 44.9
	合計	1,008	1,329	▲ 321	▲ 24.2

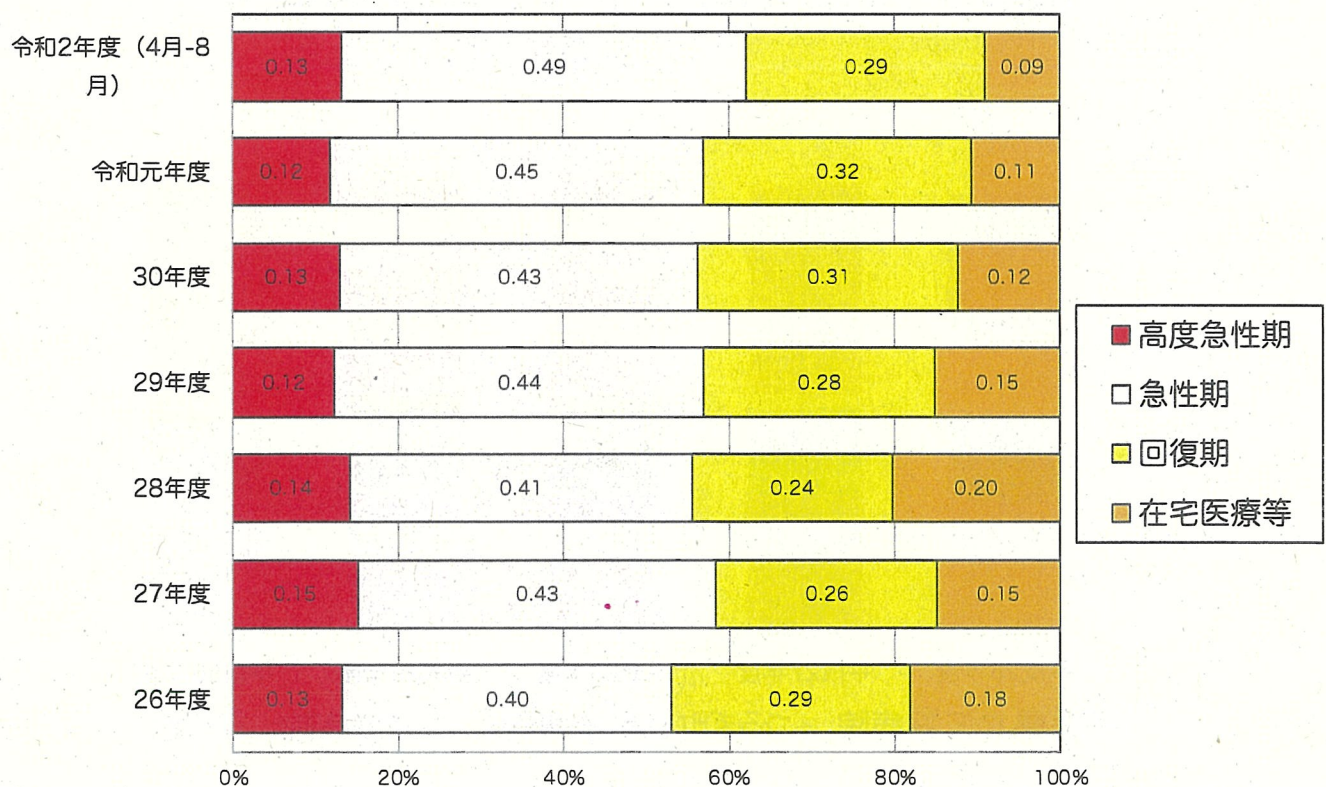
6/16

Tokushima Prefectural Miyoshi Hospital

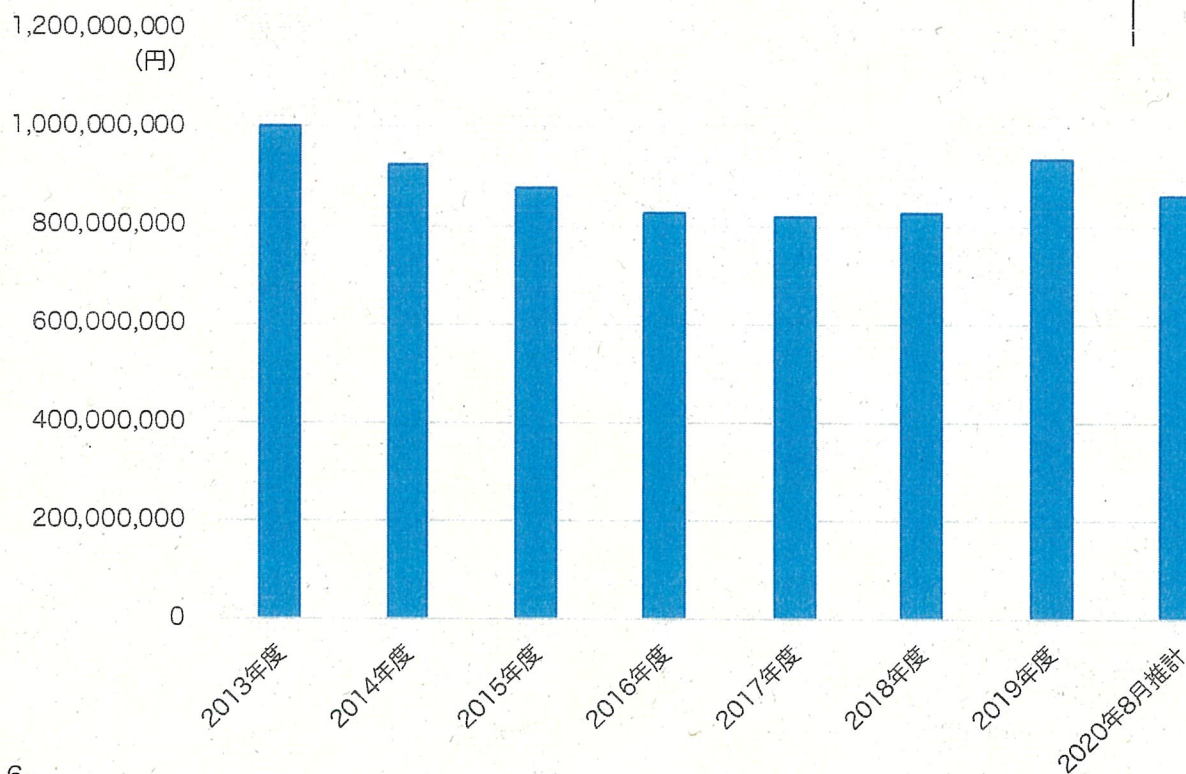
西部圏域の回復期病床（病院）



徳島県立三好病院・医療機能の定量評価



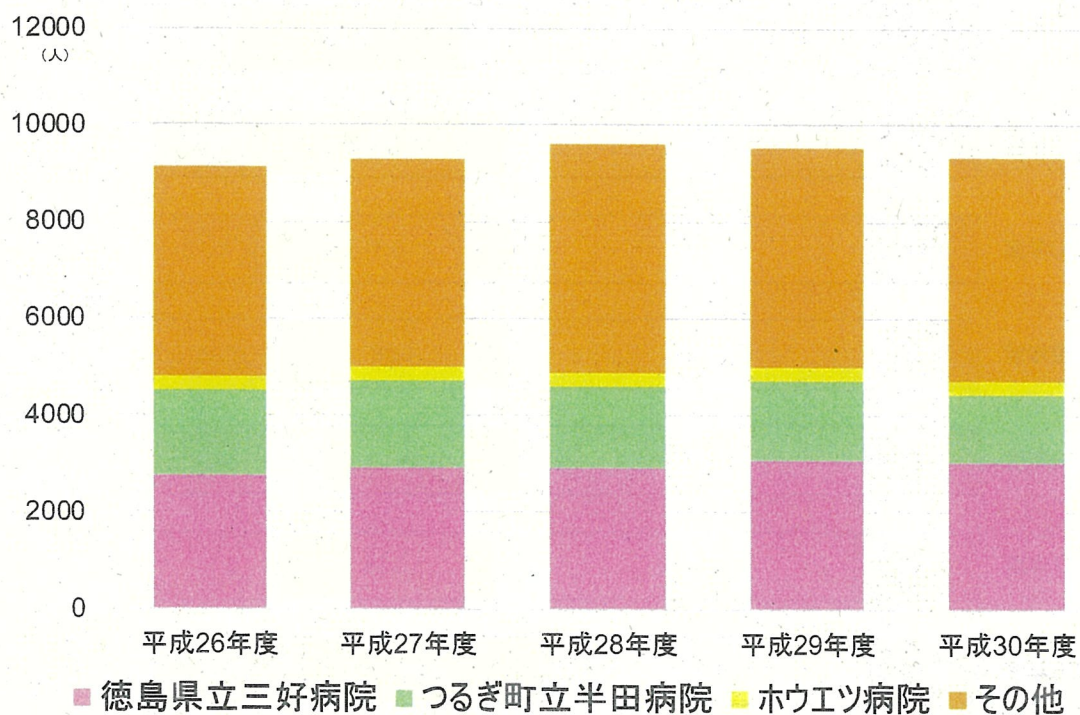
外来収益



9/16

Tokushima Prefectural Miyoshi Hospital

徳島県西部県域在住DPC退院患者数



10/16

Tokushima Prefectural Miyoshi Hospital